

園だより

12月号

令和5年11月30日
新宿区立西戸山幼稚園
園長 佐藤 淳穂



カマキリ カジキマグロ 茎わかめ

園長 佐藤 淳穂

こども会で年長組は創作劇をすることになりました。海、森、お城を舞台に様々な登場人物が繰り広げるハートフルな物語になるようです。張り子のお面を作っているテーブルに行くと、「カマキリ」の役になるAさんが昨日から乾かしていた頭の部分に手を加えていました。長く伸びたモール製の触角を満足そうに眺め、「目は光ってるんだよねー。」と目を作るための材料を探しています。Aさんは紙を握りこぶし大に丸め、キラキラ光るラミネート紙で包み、カマキリ特有の大きな複眼を二つ、作り上げました。

しかし、それだけではありませんでした。Aさんは「目には黒くて丸いところがあって光っているんだよね」とつぶやいたのです。私は、艶のある黒い紙をAさんと一緒に探しました。なかなか黒い艶紙が見付けられず、とりあえず手に取ったものは、光沢はあるものの透け感のあるセロハン紙でした。私がさらに教材室の奥の方を探そうとすると、Aさんは「これで大丈夫！」と言いました。聞くと、「黒い紙で作ってこのセロハン紙で包むことにするから」と言うのです。2種類の素材を組み合わせ、黒くて光る目を実現させようというわけです。ないものを作り出そうとするこの姿勢に私は脱帽しました。

この後、Aさんは「顎(あご)も作る」と言って、厚手の紙(板目紙)を緑色のクレパスで塗り込んでいました。板目紙は白いものしかないので、自力で色をつけていたのです。Aさんが出来上がった顎をお面に貼り付けようとする、両面テープの粘着が効かずにポロリと落ちてしまいました。クレパスの油のせいで糊の水分会がはじかれてしまったのです。今度は粘着剤の選択について考えることを迫られ、Aさんは木工用のボンドで試していました。

Aさんの隣ではBさんが「カジキマグロ」のお面を作っていました。カジキといえば剣のように長く鋭く伸びている顎が特徴ですが、Bさんは図鑑を見ては牛乳パックを切り、また図鑑を見て確認し…を繰り返して形や色を工夫していました。それぞれが自分の役にふさわしいものを作りたい一心で試行錯誤し、時間をかけて集中して作っていました。振り向くと、床面では、段ボール製の岩が完成間近でした。わかめの茎のような海藻が大きなたわしのようにびっしりと貼り付けられていて、すみれ組らしさに笑ってしまいました。海の生き物になる子どもたちが共同で作っていました。



劇づくりは、子どもたちの思い描くファンタジーの世界を表現する楽しい活動です。役になったつもりで動き、ストーリーを紡ぐ言葉にあらためて出会い、衣装や大道具作りでイメージを実現することを乐みます。年長組にとっては、一人一人の思考と想像と創作の結集であり、また一人では決してできない友達との協同的で総合的な活動です。幼稚園での遊びの集大成とも言えるでしょう。

日頃のごっこ遊びや虫、草花とのふれあい、みんなで楽しむ絵本や行事など、様々な体験を共有しながら育ち合っている子どもたちの姿を、この劇遊びの中に感じることができます。3歳児、4歳児クラスでは就学までの発達を見通しながら、「今」を楽しむ劇遊びを行っています。今月は、その成長の過程をご覧いただきたいと思います。